

# [ 横浜美術館 ]

## 平成 27 年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業。○：共催事業  
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標。■：定性的指標  
を示します。

### 1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m <sup>2</sup> ・26,829 m <sup>2</sup>
開館日	平成元年11月3日

### 2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成20年4月1日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

### 3 指定管理に係る業務総括

#### (1) 基本的な方針の総括

今年度の展覧会においては、蔡國強展は、新作を館内で制作するとともに過去の代表作の展示を行い、多くの来場者を魅きつけ、美術専門家からも高い評価を得ることができました。さらに、石田尚志展も、専門家の高い評価を得ることができ、作家自身も国内外での展示が続いています。また、村上展は多くの海外メディアに取り上げられ、地元作家である中島展でも地域との連携を図りました。

今年度は大学・学校連携も進みました。蔡國強展では制作や記録映像を大学と行い、市民のアトリエでは大学と一緒に高齢者向けプログラムのアウトリーチを実施しています。そして、鑑賞教育では、横浜市内小学校の生徒がみなとみらいホールでの音楽鑑賞前後に当館コレクション展をボランティアとともに鑑賞したり、横浜トリエンナーレで話題になった中高生プログラムを他館と連携して蔡展にて実施するなど、新たな試みも行いました。

施設運営においては、一步すすんだお客さまサービスを目指すビジターサービスの強化のため、ボランティアの募集を行うなど準備に取り組みました。また、新規2社を含め3社から協賛を得るなど、企業からの支援を深めつつあります。そして、次期中期計画の確定を受け、国際グループの立上げなど、組織および事業の準備をしています。

以上のように、各事業で着実に進展した年となり、これまでの活動実績が評価され、平成27年度地域創造大賞（総務大臣賞）受賞につながることができました。

## (2) 27年度の業務の方針及び達成目標の総括

### ①「経営」の総括

蔡國強展や村上隆コレクション展など当館ならではの質の高い企画展(4回)とコレクション展(3回)の開催を通じ、国内だけでなく複数の駐日大使や海外美術館関係者が来館され、世界に向けて横浜の魅力を発信しました。

専門性を発揮した事業としては、「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2015」の一環として横浜赤レンガ倉庫が開催する「ダンス・ワーキング・プログラム」と連携し、舞踊史を学ぶ講座、子どものためのダンス・ワークショップ、西馬音内盆踊りで市民と交流する納涼会を、美術館の展覧会やノウハウを活かして展開しました。

広報事業としては、蔡國強展広報において、爆破制作メディア公開やNHK「ニュース シブ5時」での爆破制作の生中継、BBCの放映による海外発信など、今までにない活動を実施しました。そして、現代美術展の多い今年度に強化したTwitterでは、首都圏最大級の11万人以上のフォロワーを獲得しています。その他、企画展英文プレスリリース・展覧会招待状の海外送付を開始し、海外プレスリストも拡大するなど、海外との連携を強化しています。来年度には、コレクション展英文プレスリリースの制作・送付など、一層の充実を予定しています。

なお、横浜市が推進する事業であるフォト・ヨコハマやコンベンション誘致など都市戦略との連携を行いました。これまでの活動実績が評価され、創造的な国際都市のシンボルとして、平成27年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞につながることができました。

### ② 事業の総括

#### ◇展覧会

年間を通し話題を提供し、評価の高い展覧会を実現しましたが、企画展合計の目標220,000人に対し、実績は206,018人(93.6%)となりました。展覧会の内容については、石田尚志展が、読売新聞のベストに入り、毎日新聞の回顧で忘れがたい若手作家展として取り上げられ、また、蔡國強展においては、日本経済新聞、読売新聞、産経新聞の回顧でアジアの著名な作家の大規模個展の一つとして取り上げられるなど、当館の存在感を示すことができ、専門家の高い評価を得ることができました。横浜ゆかりの当館収蔵作家の個展である中島展については、追加の無料開館の実施や横浜市各区との連携など告知に努めましたが、入場者数が目標を下回りました。村上隆コレクション展では、海外からの来場者が目立ち、SNSやメディア露出は極めて高く国内外で注目を浴びた展覧会でしたが、会期が短く、村上隆氏トーク、特別割引、夜間開館の実施など努力を重ねましたが、目標入場者数には達しませんでした。今後、目標設定に資する適切なデータを検証し、目標の精度を上げていきます。また、若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標入場者数を大幅に超える来場者に観覧いただきました。

コレクション展については、コレクション展合計の目標229,000人に対し、実績は230,019人(100.4%)となりました。

国際発信については、展覧会会場パネル(章パネルまで)日英併記の徹底を行い、海外からの来場者も美術を深く鑑賞できる環境を整えています。来年度からは、企画展カタログ(概要、奥付、挨拶、作品リスト)や紀要(サマリー)の日英併記を実施し、一層の発信強化を目指します。コレクションによる国内外でのパッケージ展については、今後継続的に開催すべく、まずは、ヨコハマトリエンナーレ2017が開催される平成29年に国内巡回を実施できるように、メディアと連携しながら進めています。

#### ◇横浜トリエンナーレ

国際展に関するシンポジウムを開催し、第5回展の振り返りを行いました。第6回展に向けたシンポジウムは、第6回展の概要が発表された後に実施する予定です。また、ヨコハマトリエンナーレ2017の体制等については、横浜

トリエンナーレおよび海外巡回を担う国際グループの新設に向けて準備を行っています。

#### ◇美術情報センター

今年度から、学芸員と司書の資格を有した担当者が着任しました。コレクション展での資料展示や、展覧会との親和性の高い特集コーナーを企画することで、専門性の高い美術資料を多くの方に親しんでいただけるよう努めています。

#### ◇教育普及

鑑賞教育では二つの新たな試みを実施しました。横浜市全小学校が参加するみなとみらいホールでの「心の教育ふれあいコンサート」の前後に当館を観覧するよう教育委員会に働きかけ、5校がボランティアと一緒にコレクション展を観覧し、市内の子供たちに横浜美術館を身近に感じていただきました。また、ヨコハマトリエンナーレ2014で特徴のあるプログラムとして注目された中高生プログラムを、アジアの中堅作家展を開催していた森美術館と協働するという新たな展開を加え、蔡國強展にて開催しました。来年度はコレクション展において、中高生プログラムを継続するとともに、外国人に向けたボランティア・トークを実施する予定です。

さらに、創作と観賞を交えた特別支援学校ワークショップ、問題を抱える若者を支援する組織と連携したワークショップ、継続して実施している病院へのアウトリーチに加え、創作を契機とした高齢者向けプログラムを大学と一緒にアウトリーチとして実施するなど、多様な方が美術を楽しむことができる機会を拡大しています。

#### ◇市民協働・地域や市民に貢献する事業

コレクション・フレンズにおいては、来年度より、上位階層の会員に対して企画展に関する特典を提供する準備を行い、美術館活動をより深く理解し支援する市民の拡大を図っていきます。

ボランティアについても、新たな進展が見られました。蔡國強展では、作品制作において、横浜美術大学のボランティアと一般ボランティアが多数参加し、またその制作過程を東京藝術大学大学院映像研究科が撮影し、質の高い記録映像作品を制作するなど、市民や市内大学が深くかかわりました。そして、ビジターサービス・ボランティアの募集・育成を開始し、来年度以降、ビジターサービス・ボランティアの対応範囲を拡大することを検討します。また、インターンシップでは、外国人留学生在が国際シンポジウムの開催に従事し、人材育成という長期的な観点に立ち、海外との関係を強化しました。

#### ③ 運営管理の総括

ビジターサービスについては、来年度からの新たな展開にむけて、次の4つの観点から準備を行いました。1)顧客サービスの質向上として、新たに制定したガイドライン、質の向上を取入れた新たな仕様書、従来分散していたものを新たにまとめたマニュアルを整備し、委託会社とともに質向上に取り組めます。2)市民協働を活用した顧客サービスの拡大として、ビジターサービス・ボランティアの準備の他、子育て世代に向けた託児サービスの試行、近隣就業者をターゲットとして企画展毎1回の夜間開館の準備、アフターコンベンション誘致にむけた営業、海外からの来場者の把握に向けた準備を開始しました。3)館内パンフレットやサインについては、閉館放送の日英化を実現し、サインマニュアルの拡充とともにパンフレットマニュアルを整備し、マニュアルに則った改訂をH28.8までに完了させる予定です。4)季節感あるおもてなしは、今年度もお正月飾りを実施しましたが、次年度も継続していきます。

企業連携プログラムHeart to Artについては、新規2社を含め、合計3社に参加いただいています。

収支については、4つの企画展ともに対予算収支が厳しく、特に中島展では展示施行費が大きく超過しましたが、館全体の経費節減及びミュージアムショップの経営努力などにより、黒字を確保しました。

#### 4 経営に関する計画

##### (1) 横浜美術館が国際都市横浜の魅力を牽引するための取組み

###### ア 個性の発揮と創造・挑戦的な取組み

[目指す成果/アウトカム]

- ・当館ならではの個性を明確にし、集客力とともに、発信性を高めます。
- ・異なるジャンルとの連携、社会に対する美術のあり方の提起など、創造性、発信性を発揮します。
- ・組織横断的で複眼的な視点を持ち、「すべての人に開かれた美術館」を目指します。

[成果についての振り返り]

・展覧会

蔡國強展や村上隆コレクション展など当館ならではの質の高い企画展(4回)とコレクション展(3回)の開催を通じ、国内だけでなく複数の駐日大使や海外美術館関係者が来館され、世界に向けて横浜の魅力を発信しました。

・市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業の実施

コレクション・フレンズにおいては、来年度より、上位階層の会員に対して企画展に関する特典を提供する準備を行い、美術館活動をより深く理解し支援する市民の拡大を図っていきます。

ボランティアについても、新たな進展が見られました。蔡國強展では、作品制作において、横浜美術大学のボランティアと一般ボランティアが多数参加し、またその制作過程を東京藝術大学大学院映像研究科が撮影し、質の高い記録映像作品を制作するなど、市民や市内大学が深くかかわりました。そして、ビジターサービス・ボランティアの募集・育成を開始し、来年度以降、ビジターサービス・ボランティアの対応範囲を拡大することを検討します。

また、インターンシップでは、外国人留学生が国際シンポジウムの開催に従事し、人材育成という長期的な観点に立ち、海外との関係を強化しました。

・おもてなしの心の徹底とリピーター獲得への事業の実施

ビジターサービスについては、来年度からの新たな展開にむけて、次の4つの観点から準備を行いました。1)顧客サービスの質向上として、新たに制定したガイドライン、質の向上を取入れた新たな仕様書、従来分散していたものを新たにまとめたマニュアルを整備し、委託会社とともに質向上に取り組めます。2)市民協働を活用した顧客サービスの拡大として、ビジターサービス・ボランティアの準備の他、子育て世代に向けた託児サービスの試行、近隣就業者をターゲットとして企画展毎1回の夜間開館の準備、アフターコンベンション誘致にむけた営業、海外からの来場者の把握に向けた準備を開始しました。3)館内パンフレットやサインについては、閉館放送の日英化を実現し、サインマニュアルの拡充とともにパンフレットマニュアルを整備し、マニュアルに則った改訂をH28.8までに完了させる予定です。4)季節感あるおもてなしは、今年度もお正月飾りを実施しましたが、次年度も継続していきます。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
● 質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野を拡大する展覧会の開催	□ 企画展 4回/年 コレクション展 3期/年 ※詳細後述(5(1)ア、5(2)ア(ウ))	【達成】 企画展 4回/年、コレクション展 3期/年
● 市民協働	□ ボランティア育成 70人/年 □ NPO等との協働 1団体/年	【達成】 203人/年 【達成】 3団体/年

<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会や市民生活に貢献する事業の実施</li> <li>●おもてなしの心の徹底とリピーター獲得への事業の実施</li> </ul>	<p>※詳細後述(5(3)イ美術館アクセス・鑑賞サポート事業)</p> <p>□6事業/年</p> <p>※詳細後述(5(3)イ)</p> <p>■ビジターサービスチーム設置、研究と計画実施</p> <p>※詳細後述(6(1)ア(7)、6(2)ア)</p>	<p>【達成】6事業/年</p> <p>【達成】来年度からの組織改編による新たな始動にむけて、4つの観点からソフト準備</p>
--	--	---

## イ 都市戦略との連携

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創造都市形成や、シティーセールス、観光プロモーションと連携した事業を組織横断的に展開し、横浜市の都市戦略に寄与します。</li> <li>・当館を取り巻く市場の構造、市民の生活行動様式や芸術文化に対するニーズに関するマーケティング戦略の再構築を実現します。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市が推進する事業であるフォト・ヨコハマやコンベンション誘致など都市戦略との連携を行いました。これまでの活動実績が評価され、創造的な国際都市のシンボルとして、平成27年度地域創造大賞（総務大臣賞）受賞につながることができました。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●展覧会の開催にあわせた、みなとみらい21地区に貢献できるイベント開催</li> <li>●フォト・ヨコハマ、クラシック・ヨコハマなど横浜市が推進する事業との連携</li> <li>●横浜市のコンベンション誘致に協力したレセプション会場などとしての活用</li> <li>●当館の特色ある外観や</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p>□2回/年</p> <p>■随時</p> <p>■随時</p> <p>■随時</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/8 《よこしん》プレゼンツ ～横浜ベイ・オーケストラメンバーによる弦楽四重奏の調べ～</li> <li>・12/11-12 オートカラーアワード2015-2016</li> </ul> <p>【達成】5回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/7 音遊びワークショップ&amp;アート作品鑑賞会</li> <li>・11/25 ミュージアムコンサート in 横浜美術館 (以上、クラシック・ヨコハマ2015)</li> <li>・2/27 OPEN SHOW</li> <li>・コレクション展3期 *再掲：コレクションの活用*</li> <li>・NAP 荒木悠展 *再掲：若手のアーティストの創作支援と発信*</li> </ul> <p>(以上、フォト・ヨコハマ2016)</p> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/15 Bio Japan レセプション</li> <li>・11/26 第56回日本肺癌学会学術集会レセプション</li> </ul> <p>【達成】商業撮影17回/年</p>

<p>敷地を有効活用したフィルム・コミッションへの積極的な協力</p> <p>●展覧会の会期中に来場者アンケートを実施して有効回答各 500 通を収集して分析</p> <p>●展覧会終了後にデブリールフィング（振返り）実施し次回展に反映</p>	<p>□1 回/企画展</p> <p>□1 回/企画展</p>	<p>・ 4/5, 5/20, 6/11, 24, 7/16, 8/17, 21-22, 9/2, 15, 28, 10/30, 11/12, 19, 30, 12/22, 1/5-6, 29</p> <p>【追加実績】</p> <p>・ 1 月 平成 27 年度地域創造大賞（総務大臣賞）受賞</p> <p>【達成】 1 回/企画展</p> <p>・ 745 通, 1, 305 通, 706 通, 676 通</p> <p>【達成】 1 回/企画展</p> <p>・ 6/9, 11/10, 2/9, 4/18 実施</p>
--	---------------------------------	--

## ウ 専門性を活かしたネットワークの強化

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの対応など、財団内専門館施設の共通課題について、横断的に実施し、特定ジャンルからパイロット的に実施するなど、総合的に寄与します。</li> <li>・当館が築いてきた美術家や、事業者、NPO、ボランティア、大学などとの協働・連携体制を一層拡大・深化させていきます。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門館連携</li> </ul> <p>専門性を発揮した事業としては、「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2015」の一環として横浜赤レンガ倉庫が開催する「ダンス・ワーキング・プログラム」と連携し、舞踊史を学ぶ講座、子どものためのダンス・ワークショップ、西馬音内盆踊りで市民と交流する納涼会を、美術館の展覧会やノウハウを活かして展開しました。 <li>・市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業の実施（再掲）</li> <p>コレクション・フレンズにおいては、来年度より、上位階層の会員に対して企画展に関する特典を提供する準備を行い、美術館活動をより深く理解し支援する市民の拡大を図っていきます。</p> <p>ボランティアについても、新たな進展が見られました。蔡國強展では、作品制作において、横浜美術大学のボランティアと一般ボランティアが多数参加し、またその制作過程を東京藝術大学大学院映像研究科が撮影し、質の高い記録映像作品を制作するなど、市民や市内大学が深くかかわりました。そして、ビジターサービス・ボランティアの募集・育成を開始し、来年度以降、ビジターサービス・ボランティアの対応範囲を拡大することを検討します。</p> <p>また、インターンシップでは、外国人留学生が国際シンポジウムの開催に従事し、人材育成という長期的な観点に立ち、海外との関係を強化しました。</p> </p>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>専門館連携</u></p> <p>●美術館という特別な拠点・空間を活かして、また他の専門館とも連携</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□5 公演/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 7 公演/年</p> <p>・横浜赤レンガ倉庫ダンス・ワーキング・プログラム</p>

<p>して、様々な芸術のイベント・ウィークの開催</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5/22-24 舞踊史講座 3回</li> <li>・8/8 市民交流プログラム～蔡國強展観賞と西馬音内盆踊りの夕べ 1回</li> <li>・8/22-23 夏休みに、楽しくダンスワークショップ：小学生親子2日間、年長さん親子1日</li> </ul> <p>【追加実績】8事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財団内連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜みなとみらいホール連携事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/4 日本フィル「大人のための音楽創造ワークショップ」</li> <li>・11/25 ミュージアムコンサート in 横浜美術館＊再掲：都市戦略との連携＊</li> </ul> </li> <li>・9/25 財団子ども事業専門研修へ講師派遣</li> </ul> </li> <li>・財団外連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/11 神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会開催</li> <li>・10/12 ルーマニア大使館共催シンポジウム「ブランクーシとイサム=ノグチの交流：日羅文化交流の証」</li> <li>・11/13 横浜市栄区民センターリリース芸術大学</li> <li>・2/7 茅野市美術館ボランティア</li> <li>・2/11, 27 神奈川県ライトセンター</li> </ul> </li> </ul>
<p><u>館外との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティア育成、市民とのフラットなコミュニケーション、横浜美術館コレクション・フレンズを通じて実現する市民協働</li> <li>●横浜市、NPO 法人などとの連携を深め、美術館におけるエデュケーション事業を発展させた地域社会や市民に貢献する事業</li> </ul>	<p>□3 事業/年 ※詳細後述(5(3)ア(エ))</p> <p>□6 事業/年 ※詳細後述(5(3)イ)</p>	<p>【達成】3 事業/年</p> <p>【達成】6 事業/年</p>

エ 広報・連携体制の充実・強化

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の展覧会や事業ごとの宣伝だけでなく、当館の発信のため、戦略的に展開します。</li> <li>・当館を支えていただいている市民やメディアと、信頼と支援の関係性をより強固に形成します。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報事業としては、蔡國強展広報において、爆破制作メディア公開やNHK「ニュース シブ5時」での爆破制作の生中継、BBCの放映による海外発信など、今までにない活動を実施しました。</li> <li>・そして、現代美術展の多い今年度に強化したTwitterでは、首都圏最大級の11万人以上のフォロワーを獲得しています。</li> <li>・その他、企画展英文プレスリリース・展覧会招待状の海外送付を開始し、海外プレスリストも拡大するなど、海外との連携を強化しています。来年度には、コレクション展英文プレスリリースの制作・送付など、一層の充実を予定しています。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「近隣から始まる来館者の拡大」を目標に、「近隣アートプログラム」を実施</li> <li>●ウェブサイトへのアクセスも横浜美術館へのビジターと捉え、ウェブコンテンツ、ウェブサイトでの視聴覚プログラムの配信、メルマガやオンラインショッピングなどを通じて来館を促す手法開発</li> <li>●メディア関係者との交流会と意見交換会</li> <li>●その他</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□4回/年</li> <li>□ウェブサイトアクセス数 4,800,000件/年</li> <li>メルマガ登録人数 500人増/年</li> <li>Twitterフォロワー数 5,000人増/年</li> <li>□1回以上/年</li> <li>□コレクションを活用した広報ツール制作 1回/年</li> </ul>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p><b>【達成】</b> 21回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マークイズ店長会 3/10, 4/14, 5/13, 6/9, 7/14, 8/4, 9/15, 10/13, 11/17, 12/8, 1/12, 2/9, 3/8</li> <li>・マークイズ接客研修 7/7-8</li> <li>・MMcc 横浜美術館ナイト 4/22, 9/16, 11/27, 2/24</li> <li>・かもめスクール 消しゴムスタンプ 6/17, 24</li> <li>・西区連合町内会長会議 3/18</li> </ul> <p><b>【一部未達成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイトアクセス数 4,742,010件/年</li> <li>・メルマガ登録人数 1,098人増/年</li> <li>・Twitterフォロワー数 87,999人増/年</li> </ul> <p><b>【追加実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/8 蔡展 Facebook 開始 (12/27 美術館公式 Facebook へ)</li> </ul> <p><b>【達成】</b> 2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/20 蔡國強展爆破制作メディア公開取材</li> <li>・2/29 メディア懇談会</li> </ul> <p><b>【達成】</b> 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月 コレクション3作品をモチーフ</li> </ul>



	<p>■首都圏に焦点をあてた広報展開</p> <p>■平成 28 年度以降、すべての展覧会プレスリリースを日英で発行できるよう運営体制を準備</p> <p>■平成 28 年度以降、海外メディアへの広報を充実できるよう運営体制を準備</p>	<p>にしたポーチ各 400 個</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石田展：アートフェア東京、六本木アートナイト、恵比寿映像祭、文化庁メディア芸術祭等で特別割引券配布</li> <li>・蔡展：都内主要駅での交通広告</li> <li>・中島展：郷さくら美術館・三溪園の相互割引</li> <li>・村上展：森美術館との相互割引</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定企画展のみ今年度実施：3, 6, 12 月海外メディアリスト宛に石田展、蔡展、村上展プレスリリースを発送</li> <li>・企画展・コレクション展全展について、来年度実施</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 月 海外プレスリストを整備</li> </ul> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中島展で横浜市各区との連携した告知を実施</li> </ul>
--	---	---

オ 経営基盤の強化と長期的・継続的な検証の実施

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の安定的な実施と適切な施設管理に資する健全な収支維持のため、各事業のマーケティングの強化や外部資金の導入などにより、自主・自律的な組織運営を目指します。</li> <li>・PDCA サイクルを様々なレベルで機能させ業務品質管理を高めます。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主財源 企業連携プログラム Heart to Art については、新規 2 社を含め、合計 3 社に参加いただいています。</li> <li>・事業評価制度の運用 計画どおり、適正に実施しました。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自主財源の開拓</li> <li>●事業評価制度の運用</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□2 種/年 ※詳細後述(6(2)ウ)</li> <li>□4 種/年 ※詳細後述(7(1))</li> </ul>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【達成】2 種/年</li> <li>【達成】4 種/年</li> </ul>

カ 市との政策協働の着実な推進

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10年のビジョンを実現するために、市と当館の政策協働体制を確立し、相互のやり取りによって、より有効な政策・施策や事業を検討するとともに、文化芸術以外の他の政策との連携を進めます。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次期中期計画の確定を受け、国際グループの立上げなど、組織および事業の準備をしています。</li> <li>・政策経営協議会では美術館の目標と実績を共有し、また、外部評価委員の視察内容を市に提案するなど、政策協働パートナーとしての責務を果たしています。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <p>●政策協働による指定管理</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■政策経営協議会および指定管理者選定評価委員会への参加と各種意見の事業への反映</p> <p>※詳細後述(7(1)ア)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】政策経営協議会 4 回開催、評価委員視察 3 回および評価委員会 3 回への対応</p>

## 5 事業についての計画

### (1) 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げるための取組み

#### ア 質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野の拡大

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく実施します。</li> <li>・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し共催します。</li> <li>・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回させていきます。</li> </ul> <p>以上を行うことで、質の高い文化活動を実現し、来館者の裾野を拡大します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通し話題を提供し、評価の高い展覧会を実現しましたが、企画展合計の目標 220,000 人に対し、実績は 206,018 人 (93.6%) となりました。</li> <li>・展覧会の内容については、石田尚志展が、読売新聞のベストに入り、毎日新聞の回顧で忘れがたい若手作家展として取り上げられ、また、蔡國強展においては、日本経済新聞、読売新聞、産経新聞の回顧でアジアの著名な作家の大規模個展の一つとして取り上げられるなど、当館の存在感を示すことができ、専門家の高い評価を得ることができました。横浜ゆかりの当館収蔵作家の個展である中島展については、追加の無料開館の実施や横浜市各区との連携など告知に努めましたが、入場者数が目標を下回りました。村上隆コレクション展では、海外からの来場者が目立ち、SNS やメディア露出は極めて高く国内外で注目を浴びた展覧会でしたが、会期が短く、村上隆氏トーク、特別割引、夜間開館の実施など努力を重ねましたが、目標入場者数には達しませんでした。今後、目標設定に資する適切なデータを検証し、目標の精度を上げていきます。</li> <li>・国際発信については、展覧会会場パネル(章パネルまで)日英併記の徹底を行い、海外からの来場者も美術を深く鑑賞できる環境を整えています。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>展覧会</u></p> <p>●石田尚志 渦まく光展</p> <p>【3月28日(土) - 5月31日(日)】</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数：25,000 人</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】23,658 人</p>

<p>       昨今、現代美術と映像の領域で大きな注目を集める石田尚志の、初の大規模な個展。石田は、絵画制作のプロセスである「絵を描く」という行為に着目し、それを映像メディアによって作品化する。その映像制作で石田がたびたび用いるのが「ドローイング・アニメーション」の手法である。抽象的な線を少しずつ描いてはコマ単位で撮影するという行為を反復することによって紡ぎだされる「動く絵」。そこには、映像メディアが生まれながらにもつ視覚的魅惑が凝縮されている。本展では、過去の代表作に新作の映像インスタレーションを加えた約 30 作品に、パフォーマンスや上映会などの多彩な関連イベントも交えて、様々な表現領域を往還する独創性に富んだ石田の芸術の魅力をご紹介する。     </p> <p> <b>●蔡國強展</b>  <b>【7月11日(土) - 10月18日(日)】</b>        蔡國強 (Cai Guo-Qiang 1957年、中国福建省泉州生) は、中国を代表する現美術家のひとり。世界各地で作品を発表し、国際的に高い評価を得ている。北京オリンピックの開会式・閉会式の花火の演出で話題になった。本展は首都圏では初めての本格的な個展であり、主に日本初公開     </p>	<p> <input type="checkbox"/> 目標入場者数：90,000 人     </p>	<p> <b>【達成】</b> 91,952 人     </p>
--	---	-----------------------------------

<p>の作品で構成される。</p> <p>●中島清之展</p> <p>【11月3日(火祝) - 1月11日(月)】</p> <p>中島清之(1899～1989)は、日本美術院の中核として活躍した横浜ゆかりの画家。花鳥、人物、風景、古典芸能、仏教主題、現代風俗、そして抽象表現に至る幅広い画域を展開し、最晩年には横浜の三溪園の障壁画を手がけた。青年期の安雅堂画塾での古画研究に裏づけられた巧みな筆技に抛りつつも、同じ様式を繰り返すことを厭い、常に大きく画風を変えて観る者を驚かせたことから、「変転の画家」とも評された。本展では、代表作とともにスケッチや画稿もあわせて展示し、作品の制作過程や画家の関心の在り様を探る。大正から戦後昭和という激変と混沌の時代に生きた画家が、一見次々と変貌する制作の中で貫こうとしたものは何であったのか、画家の全容に迫り、その軌跡をたどる。</p>	<p>□目標入場者数：35,000人</p>	<p>【未達成】30,157人</p>
<p>●村上隆の眼：Kaikai Kiki コレクション展</p> <p>【1月30日(土) - 4月3日(日)】</p> <p>現代日本を代表するアーティストのひとりである村上隆(1962年生)は、作家活動だけでなく、評論家、ギャラリスト、プロデューサーとして多岐にわたる活動を展</p>	<p>□目標入場者数：70,000人</p>	<p>【未達成】60,251人</p>

<p>開する傍ら、近年は国内外の様々な美術品を積極的に蒐集し続けている。作家の独自の眼で選ばれた、その知られざる Kaikai Kiki コレクションは、現代美術を中心に骨董や現代陶芸にまで及ぶ。今回、これらを本展において初公開することによって、村上隆が若き日に受けた刺激や共感、新しい意味や価値創造についての飽くなき探求、そしてあらゆる角度から芸術に取り組むその姿勢等を明らかにし、アートの神髄について考える。</p> <p><u>その他</u></p> <p>●企画展の海外巡回</p> <p>●その他</p>	<p>■平成 28 年度以降、概ね 3 年に一度をめざし、企画展およびコレクションパッケージ展を海外巡回できるよう候補展の選定と運営体制を準備</p> <p>■平成 28 年度以降、原則、企画展の会場パネルおよびカタログを日英併記にできるよう検討</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9/9, 3/1 国際グループと学芸グループの役割分担など、今後の実施体制協議</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会場パネル(章パネルまで)については今年度より全企画展で実施</li> <li>・ 企画展カタログ(概要、奥付、挨拶、作品リスト)日英併記の徹底については、来年度より開始</li> </ul>
---	---	---

## イ 若手のアーティストの創作支援と発信

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アートギャラリーやグランドギャラリーを活用して、有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援します。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標入場者数を大幅に超える来場者に観覧いただきました。</li> </ul>
--

<p>[取組内容]</p> <p>●若手作家支援事業</p> <p>横浜トリエンナーレの作家選定に資することを前提に、横浜トリエンナーレ組織委員会と連携し、ユニークな活動を展開しつつある有望な若手アーティストを独自の視点で選出し、アートギャラリーやグランドギャラリーでその作品を紹介</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数：3,000人</p> <p>■前年度3月：作家選定</p> <p>■広報：プレスリリース、ダイレクトメール、ホームページ等による効果的な広報展開。企画展のオープニングや記者会見の機会を活かして告知。</p> <p>■会場：来客の難しいアートギャラリー以外での作品展示を検討</p> <p>■海外発信：ダイレクトメールや報告書、ホームページを日英バイリンガルで製作</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】2/26-4/3 New Artist Picks「荒木悠展 複製神殿」13,357人</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度 秋作家決定</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月 ウェブサイト日英公開</li> <li>1月 プレスリリース和文公開</li> <li>2月 プレスリリース英文公開</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月 アートギャラリー以外の会場決定</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月 ウェブサイト日英公開*再掲*</li> <li>2月 プレスリリース英公開*再掲*</li> </ul> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/27 アーティスト・トーク*再掲：鑑賞サポート事業*</li> <li>・3/21 新作講評会*再掲：鑑賞サポート事業*</li> </ul>
---	--	---

#### ウ 横浜トリエンナーレへの取組み

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局運営に前回展の分析を活かし、速やかに次回展の準備ができるよう、横浜トリエンナーレ組織委員会と協力します。</li> <li>・ディレクターの選定と次回展のテーマ決定に協力し、取組みます。選定されたディレクターのもと、テーマに沿った調査を行い、作家と作品選定を進めます。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際展に関するシンポジウムを開催し、第5回展の振り返りを行いました。第6回展に向けたシンポジウムは、第6回展の概要が発表された後に実施する予定です。</li> <li>・また、ヨコハマトリエンナーレ2017の体制等については、横浜トリエンナーレおよび海外巡回を担う国際グループの新設に向けて準備を行っています。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <p>●シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春 第5回横浜トリエンナーレの実施結果を分析しつつ、解決すべき問題点の抽出、今後、取り組むべき課題について</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p>■石田展会期中に実施</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/11 日本の国際展のいま、未来——美術館、地域といかにして共栄しえるか（登壇者：拝戸雅彦，名和晃平，飯田志保子，逢坂恵理子）</li> </ul>

<p>議論し、主会場の一つとして次回に向けて提言。</p> <p>・冬 第6回横浜トリエンナーレのディレクターから示されたテーマに基づき、アジアにおける「美術館と国際展」のテーマを共有できる機関と同テーマについて議論。これからの方向性について考察。</p> <p>●国内外調査・研究、ネットワーク形成</p>	<p>■村上隆展会期中に実施</p> <p>■国内外の主要な国際展視察</p> <p>・3-5月 PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭</p> <p>・5-11月 ヴェニス・ビエンナーレ</p> <p>・7-9月 越後妻有アートトリエンナーレ</p>	<p>【未達成】</p> <p>・第6回横浜トリエンナーレ概要の公表後、平成28年夏以降実施</p> <p>【達成】</p> <p>・3月 PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭</p> <p>・5月 ヴェニス・ビエンナーレ</p> <p>・7月 越後妻有アートトリエンナーレ</p>
--	--	--

(2) 魅力あるコレクションを形成し、活用するとともに未来に継承するための取組み

ア 魅力あるコレクションの形成、活用と未来への継承

(ア) コレクションの形成

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>・市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●今後の中期的な収集の方向性検討</p> <p>●3か年ごとの収集計画策定</p> <p>●横浜トリエンナーレの機会を活かした、話題性のある現代美術作品の</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■平成25年度提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>■平成25年度提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>■横浜ゆかり作家の収集計画を立案 平成25年度提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>□9月 内部検討委員会 1回/年</p> <p>11月 横浜市美術資料収集審査委員会 および価額評価委員会 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <p>・8/31 内部検討委員会</p> <p>・12/2 収集委員会</p>

<p>収集提言</p> <p>●内部検討委員会、横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会を経た適正な収集方法</p>		
--	--	--

(イ) コレクションの継承

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫内の環境を整え、作品の材質に適した状況で作品を安全に保存します。</li> <li>・作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所を整備し、コレクションを確実に管理します。</li> </ul> <p>以上を行うことで、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫の状況について、現状の課題を市と共有し、新収蔵品のデータを登録して、目録として公開し、広く研究に貢献しました。</li> <li>・集中的な庫内清掃を学芸員が実施し、庫内環境の保全に努めました。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●収蔵庫の満杯状態を改善するための新蔵置方法提案</li> <li>●収蔵作品台帳をもとにした収蔵品目録の印刷物を作成</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■平成 25 年度提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</li> <li>□3 月 前年度の新収蔵品の目録発行 1 回/年</li> </ul>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】1 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 月 2014 (H26) 年度収蔵品目録 500 部発行</li> </ul>

(ウ) コレクションの活用

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として年 2 ～ 3 回コレクション展を開催します。</li> <li>・来場者が作品に親しみ、鑑賞を深められるよう、展示構成やテーマ展示などを工夫します。</li> <li>・人気の高い作品を展示する一方で、様々なテーマを立てて、1 万点近いコレクションのなるべく多くを展示し、特に新収蔵作品は迅速に展示公開します。</li> <li>・同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示をし、来館者の作品理解を深める工夫をします。</li> <li>・質の高い鑑賞体験を確保できるよう、展示方法や展示室の環境整備と情報提供に工夫をします。</li> <li>・コレクションをベースにする企画展を開催するほか、コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催をオファーします。</li> </ul> <p>以上を行うことで、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクション展については、コレクション展合計の目標 229,000 人に対し、実績は 230,019 人 (100.4%) となりました。</li> <li>・国際発信については、展覧会会場パネル (章パネルまで) 日英併記の徹底を行い、海外からの来場者も美術を深</li> </ul>		
--	--	--



<p>く鑑賞できる環境を整えています。(再掲)</p> <p>・コレクションによる国内外でのパッケージ展については、今後継続的に開催すべく、まずは、ヨコハマトリエンナーレ 2017 が開催される平成 29 年に国内巡回を実施できるよう、メディアと連携しながら進めています。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>展覧会</u></p> <p>●コレクション展 第 1 期 【3 月 28 日(土) - 5 月 31 日(日)】</p> <p>●コレクション展 第 2 期 【7 月 11 日(土) - 10 月 18 日(日)】</p> <p>●コレクション展 第 3 期 【11 月 3 日(火祝) - 1 月 11 日(月), 1 月 30 日(土)-4 月 3 日(日)】</p> <p><u>その他</u></p> <p>●コレクションによるパッケージ展</p> <p>●その他</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数:27,000 人</p> <p>□目標入場者数:93,000 人</p> <p>□目標入場者数:109,000 人</p> <p>■平成 28 年度以降、概ね 3 年に一度をめざし、国内外巡回できるよう企画案と運営体制を準備</p> <p>■コレクションの特別利用：随時</p> <p>■平成 28 年度以降、原則、コレクション展の会場パネルを日英併記にできるよう検討</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 27,284 人</p> <p>【達成】 106,236 人</p> <p>【未達成】 96,499 人</p> <p>【達成】</p> <p><u>国内巡回</u></p> <p>・7/13 巡回展内容案を営業担当のメディアと協議</p> <p>・今後、H28.9 開催館契約、H29 夏巡回に向け準備</p> <p><u>国外巡回</u></p> <p>・9/9, 3/1 国際グループと学芸グループの役割分担など、今後の実施体制協議</p> <p>【達成】 図版貸出 73 件 150 点 熟覧 2 件 4 点</p> <p>【達成】</p> <p>・会場パネル(章パネルまで)については今年度より全コレクション展で実施</p>

イ モノとしての「美術情報」の収集、保管、活用

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>・デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたって、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してき</p>
---

<p>た図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から、学芸員と司書の資格を有した担当者が着任しました。</li> <li>・コレクション展での資料展示や、展覧会との親和性の高い特集コーナーを企画することで、専門性の高い美術資料を多くの方に親しんでいただけるよう努めています。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●企画展等事業連動した特集公開</li> <li>●横浜トリエンナーレ情報集積とアーカイブ化</li> <li>●映像資料公開</li> <li>●その他</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□特集コーナーの設置 4回/年</li> <li>■平成25年度以降、アーカイブ継続</li> <li>□7月 映画や映像作品の公開 1回/年</li> <li>■平成28年度以降の大規模改修を見据えたさらなる開かれた専門性を目指して、他館の最新事例や体制調査</li> </ul>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】5回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石田展 4/1-7/5 美術と音楽</li> <li>・中島展 11/3-4/3 手漉和紙大鑑</li> <li>・村上展 1/27-4/3 BT・美術手帖</li> <li>・コレクション展2期 8/7-10/31 戦時体制下の美術教科書</li> <li>・コレクション展3期 12/16-4/3 追悼 中平卓馬</li> </ul> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクション展2期で資料展示</li> </ul> <p>【達成】</p> <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/29-31 映像表現の最先端を紹介する国内最大級の映像アートの祭典、イメージフォーラム・フェスティバル2015にて当館所蔵の映像資料を含むフィルムアート上映。また同時期開催の「石田尚志 渦まく光」展にあわせ、石田氏をナビゲーターとした特集プログラムも実施。</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内8館、海外2館調査</li> </ul>

#### ウ 美術館活動の基礎としての調査・研究

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクション、企画展、教育普及、マネジメントなどあらゆる美術館活動の基礎として調査・研究を位置づけ、その成果を事業に反映して美術館活動の質を向上させると同時に、紀要などにまとめて社会に還元します。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。</li> <li>・研究紀要を発行しました。来年度からは、紀要(サマリー)の日英併記を実施し、一層の発信強化を目指します。</li> </ul>
--

<p>[取組内容]</p> <p>● 紀要発行、関係機関に配布</p> <p>● テーマを設定し、コレクションおよび企画展のための調査研究実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□ 3月 研究紀要の発行(論文3本) 1回/年</p> <p>□ ・コレクションおよび企画展についての研究19項目</p> <p>・ トリエンナーレに関する研究4項目</p> <p>・ ミュージアム・エデュケーションについての研究22項目</p> <p>・ 美術情報に関わる研究1項目</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【一部、未達成】1回/年</p> <p>・ 3月 500部(論文2本)</p> <p>・ 紀要(サマリー)日英併記の徹底については、来年度より開始</p> <p>【達成】計画どおり各項目調査研究実施</p>
---	---	---

(3) 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝える取組み

ア 多様な市民が鑑賞、創作を楽しむことができるプログラム

(ア) 鑑賞サポート事業

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25-27年度でコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化に着手します。</li> <li>・子どもを対象とした鑑賞プログラムの開発に学校と連携して取組みます。</li> </ul> <p>以上のように鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たします。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞教育では二つの新たな試みを実施しました。横浜市全小学校が参加するみなとみらいホールでの「心の教育ふれあいコンサート」の前後に当館を観覧するよう教育委員会に働きかけ、5校がボランティアと一緒にコレクション展を観覧し、市内の子供たちに横浜美術館を身近に感じてもらいました。また、ヨコハマトリエンナーレ2014で特徴のあるプログラムとして注目された中高生プログラムを、アジアの中堅作家展を開催していた森美術館と協働するという新たな展開を加え、蔡國強展にて開催しました。来年度はコレクション展において、中高生プログラムを継続するとともに、外国人に向けたボランティア・トークを実施する予定です。</li> <li>・さらに、創作と鑑賞を交えた特別支援学校ワークショップ、問題を抱える若者を支援する組織と連携したワークショップ、継続して実施している病院へのアウトリーチに加え、創作を契機とした高齢者向けプログラムを大学と一緒にアウトリーチとして実施するなど、多様な方が美術を楽しむことができる機会を拡大しています。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>鑑賞サポート事業</u></p> <p>● コレクションを活用した鑑賞サポート</p> <p>● ギャラリートーク</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□ 8回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】21回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1期 4/3, 17, 5/1, 15, 29</li> <li>・ 第2期 7/17, 31, 8/7, 21, 9/4, 18, 10/2, 16</li> <li>・ 第3期 11/6, 20, 12/4, 18, 2/5, 19, 3/4, 18</li> </ul>

<p>●学芸員や収蔵作家によるレクチャー</p>	<p>□1回/コレクション展</p>	<p>【達成】1回以上/コレクション展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期 4/25, 5/16 アーティスト・トーク</li> <li>・第2期 7/25 トークセッション、8/23 アーティスト・トーク</li> <li>・第3期 2/13, 3/12 アーティスト・トーク</li> </ul>
<p>●鑑賞ワークショップ</p> <p>●障がい者向け鑑賞会</p>	<p>□2回/年</p>	<p>【達成】6回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/19, 1/9 横浜市特別支援学校 創作・鑑賞ワークショップ2校(一部、企画展にて実施)</li> <li>・5/25, 9/28, 2/17 若者支援 鑑賞ワークショップ3回[K2国際ナショナル連携] (一部、企画展も活用)</li> <li>・11/21 横浜市視覚障害福祉協会鑑賞プログラム1回</li> </ul>
<p>●高齢者向けプログラム</p>	<p>□1回/年</p>	<p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/12 戸部ハマノ愛生園[横浜国立大学連携] *12/15 検討授業</li> </ul> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/1, 29, 30, 10/5, 6 心の教育ふれあいコンサートの前後で当館コレクション展をボランティア・エドゥケーターとともに鑑賞</li> <li>・5/22-24 横浜赤レンガ倉庫ダンス・ワーキング・プログラム 舞踊史講座3回* 再掲:専門性を活かしたネットワークの強化*</li> </ul>
<p>●その他</p>	<p>■平成28年度以降の鑑賞サポートプログラムの立案</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/9 教育普及グループと学芸グループの役割分担など、今後の実施体制協議</li> </ul>
<p>●企画展鑑賞サポート</p> <p>●ギャラリートーク</p>	<p>□8回/年</p>	<p>【達成】19回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石田展 4/10, 24, 5/8, 22</li> <li>・蔡展 7/17, 31, 9/4, 11, 16, 18</li> <li>・中島展 11/27, 12/11, 25</li> <li>・村上展 2/12, 26, 3/11, 25, 4/1, 2</li> </ul>
<p>●講演会等</p>	<p>□8回/年</p>	<p>【達成】12回/年</p>

<p>●鑑賞ワークショップ</p>	<p>□1回/企画展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石田展 4/19, 26 上映&amp;トーク</li> <li>・蔡展</li> <li>7/11 アーティスト・トーク</li> <li>9/20, 23 蔡展シルバーウィーク対談</li> <li>・中島展</li> <li>11/21 記念対談</li> <li>12/6 フロアトーク</li> <li>・村上展</li> <li>1/30, 2/21, 3/19 トークイベント</li> <li><b>【追加実績】</b></li> <li>・若手作家支援展 2/27 アーティスト・トーク</li> <li>・若手作家支援展 3/21 新作講評会</li> <li><b>【達成】</b> 1回/企画展</li> <li>・石田展 5/2 ワークショップ「映像の光」 *再掲:創造支援事業 市民のアトリエ*</li> <li>・蔡展 6/28-4/3 横浜美術館・森美術館 コラボレーション 中高生プログラム 8/19 子ども探検隊</li> <li>・中島展 11/15 創作ワークショップ「日本画の絵具で描いてみよう!」*再掲: 創造支援事業 市民のアトリエ*</li> <li>・村上展 2/17 若者支援 鑑賞ワークショップ [K2 インターナショナル連携] (一部、企画展も活用) *再掲:鑑賞サポート事業*</li> </ul>
<p>●夜の美術館でアートクルーズ</p>	<p>□2回/企画展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【達成】</b> 2回/企画展</li> <li>・石田展 4/18, 5/13</li> <li>・蔡展 8/29, 9/9</li> <li>・中島展 11/28, 12/9</li> <li>・村上展 2/20, 3/9</li> <li><b>【追加実績】</b></li> <li>・5/5 石田展ライブドローイング</li> <li>・6/19 蔡展爆破制作内覧会</li> </ul>
<p>●その他</p> <p>子ども対象鑑賞サポート</p>	<p>■平成 28 年度以降の鑑賞サポートプログラムの立案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【達成】</b></li> <li>・9/9 教育普及グループと学芸グループの役割分担など、今後の実施体制協議</li> </ul>

●個人向け鑑賞講座	□3 講座/年	【達成】4 講座/年 ・石田展 5/5 親子講座 ・蔡展 7/11 蔡さんと子どもたち ・中島展 11/23 親子講座 ・コレクション展 3期 2/7, 14, 21 美術つてなんじゃもんじゃ?
●学校プログラムと連動した鑑賞プログラム	□1 回/年	【達成】5 回/年 ・12/4, 7, 3/1, 2, 4
●夏休み子どもフェスタ	□1 回/年	【達成】1 回/年 ・8/8-12 実施 (8/8, 10, 11 アートクラブ ツアー含む)

(イ) 創造支援事業 子どものアトリエ

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの内的発達を支援するとともに、美術および美術館に親しむきっかけを提供します。</li> <li>・学校と連携し、造形、美術教育に取り組めます。</li> </ul> <p>以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、造形活動を通して子どもの自立を支援します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27,082 人の子どもたちに造形体験を通して、美術および美術館に親しむ機会を提供しました。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校プログラム：横浜市内の小学校、幼稚園・保育園、養護・特別支援学校・区毎の個別支援学級合同、各種学校を対象に実施</li> <li>●個人向け造形講座</li> <li>●親子のフリーゾーン</li> <li>●その他</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□90 校/年</li> <li>□20 講座/年</li> <li>□定員の 80%以上の参加者</li> <li>□36 回/年</li> <li>■記録画像や映像の更新 1 回/年</li> <li>■リーフレットと案内ビデオのリニューアル 1 回/年</li> </ul>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【達成】90 校/年</li> <li>【達成】20 講座/年、117%</li> <li>【達成】36 回/年</li> <li>【達成】3 月 1 回/年</li> <li>【達成】3 月 1 回/年</li> </ul>

(ウ) 創造支援事業 市民のアトリエ

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作体験をきっかけに美術に親しむ市民の裾野を広げるとともに、市民の創作活動を支援します。</li> <li>・創作体験を鑑賞につなげるワークショップを行い、作品鑑賞への興味を広げます。</li> <li>・若手アーティストを講師とするワークショップを開催し、新しい表現の魅力を市民に伝えると同時に作家支援に</li> </ul>
---

<p>つなげます。</p> <p>以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・5,781人の方に創作活動の楽しみを体験していただきました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●ワークショップ:市民が美術に親しむためのワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手アーティストによるワークショップ</li> <li>・創作体験を鑑賞につなげるワークショップ</li> <li>・外部連携した環境ワークショップ</li> <li>・大学と連携して開催するワークショップ</li> </ul> <p>●オープンスタジオ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□30講座/年(若手作家講座15回、大学連携2講座、環境ワークショップ1講座含む)</p> <p>□定員の80%以上の参加者</p> <p>□25コース/年</p> <p>□定員の80%以上の参加者</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p><b>【達成】</b>33講座/年、99%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・33講座/年(含:若手アーティストによるワークショップ40回(版画基礎コース)、大学連携2講座((通常講座外の高齢者プログラム1講座含む))、環境ワークショップ2講座)</li> </ul> <p><b>【達成】</b>28コース/年、95%</p>

(エ) 市民協働

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアトリエや美術情報センターでの運営ボランティアに加え、展覧会鑑賞パートナーを育成します。</li> <li>・美術館の運営や事業を市民とのフラットなコミュニケーションを通じて展開します。</li> <li>・市民の力を取り込んだ横浜美術館コレクション・フレンズは、その参加費をコレクション作品の展示・鑑賞、双方向的な交流、緊急を要する修復や備品などの購入に活用します。また、美術館協力会と連携し、双方の拡大を狙います。</li> </ul> <p>以上のように、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくります。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアについては、新たな進展が見られました。蔡國強展では、作品制作において、横浜美術大学のボランティアと一般ボランティアが多数参加し、またその制作過程を東京藝術大学大学院映像研究科が撮影し、質の高い記録映像作品を制作するなど、市民や市内大学が深くかかわりました。そして、ビジターサービス・ボランティアの募集・育成を開始し、来年度以降、ビジターサービス・ボランティアの対応範囲を拡大することを検討します。(再掲)</li> <li>・コレクション・フレンズにおいては、来年度より、上位階層の会員に対して企画展に関する特典を提供する準備を行い、美術館活動をより深く理解し支援する市民の拡大を図っていきます。(再掲)</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p>	<p>[達成指標]</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p>

<p><u>ボランティア</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子どものアトリエ親子のフリーゾーン運営ボランティア育成</li> <li>●美術情報センター運営ボランティア育成</li> <li>●鑑賞・館内ガイドボランティア育成</li>   <li>●その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□30人/年</li> <li>□10人/年</li> <li>□30人/年</li>   <li>■平成28年度以降の外国人、障がい者、観光客向けのビジターサービスボランティアの活用可能性について調査</li> </ul>	<p>【達成】42人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/1-3/31 29人</li> <li>・5/1-3/31 13人</li> </ul> <p>【達成】14人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日ボランティア：2/27, 3/2</li> </ul> <p>【達成】40人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27/3/8-H28/3/21 40人</li> <li>・次年度以降にむけ65人採用</li> </ul> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/17-26 蔡展ボランティア53人</li> <li>・横浜美術大学ボランティア54人 *再掲：大学連携*</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度にむけ14人採用、3/18, 19 研修</li> </ul>
<p><u>フラットなコミュニケーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学芸員OB、観光業OBなどとの連携によるおもてなしの心育成</li> <li>●横浜シティガイド協会などとの連携による横浜観光促進</li> <li>●原三溪生誕150年に向けた原三溪研究会との共同研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成27年度新プログラム実施</li> <li>■平成27年度新プログラム実施</li>   <li>□1回/月開催</li> </ul>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/27 顧客サービス員スタッフ研修[財団外部理事]</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12/20, 21 宮川香山作品街歩きツアー [横浜シティガイド協会]</li> </ul> <p>【達成】1回/月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会：4/11, 5/9, 6/13, 7/11, 8/8, 9/12, 10/10, 12/12, 1/9, 2/13, 3/11</li> <li>・シンポジウム：11/14「原三溪と矢代幸雄」</li> </ul>
<p><u>フレンズ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成27年度横浜美術館フレンズ募集</li> <li>●平成27年度フレンズ会員向けプログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□参加数140口</li> <li>□10回/年</li> </ul>	<p>【達成】184口</p> <p>【達成】10回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トーク 5/13, 16, 9/2, 5, 12/22, 1/9, 2/6, 10</li> <li>・レクチャー&amp;交流会 9/26, 3/13</li> </ul> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12/1 次年度フレンズ拡大に向け、3口</li> </ul>



<p>●協力会との共同レセプションデスクの設置</p>	<p>■平成 25 年度実施済、以後継続</p>	<p>以上の支援者への企画展追加特典告知開始</p> <p>・次年度フレンズ拡大に向け、新プロモーション実施:12/1-31 現会員への早期継続促、紹介者プレゼント、2/6, 10 モニターがフレンズ・レクチャー体験</p> <p><b>【達成】</b></p>
-----------------------------	--------------------------	---

## イ 地域社会や市民生活に貢献する取組み

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>・平成 25-27 年度には、横浜市、学校、関連機関、NPO 法人などとの連携を深めるとともに、市民との協働を充実させ、美術館におけるエデュケーション事業を地域社会や市民生活に貢献する事業に発展させていく足がかりとします。</p> <p>以上のような事業を通じて、障がい者、高齢者、外国人など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・創作と観賞を交えた特別支援学校ワークショップ、問題を抱える若者を支援する組織と連携したワークショップ、継続して実施している病院へのアウトリーチに加え、創作を契機とした高齢者向けプログラムを大学と一緒にアウトリーチとして実施するなど、多様な方が美術を楽しむことができる機会を拡大しています。(再掲)</p> <p>・また、インターンシップでは、外国人留学生が国際シンポジウムの開催に従事し、人材育成という長期的な観点に立ち、海外との関係を強化しました。(再掲)</p>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>美術館アクセス・鑑賞サポート事業</u></p> <p>●福祉関係機関、NPO 法人等と連携した、コレクション鑑賞サポート事業</p> <p>※再掲：障がい者向け鑑賞会</p> <p><u>学校教育連携事業</u></p> <p>●アートティーチャーズ・デー</p> <p>●夏休み子どもフェス</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□1 回/年</p> <p>□1 回/企画展</p> <p>□5 人/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p><b>【達成】</b> 3 回/年</p> <p>・5/25, 9/28, 2/17 若者支援 鑑賞ワークショップ3回[K2 インターナショナル連携] (一部、企画展も活用) *再掲：鑑賞サポート事業*</p> <p><b>【達成】</b> 1 回/企画展</p> <p>・石田展 4/18</p> <p>・蔡展 7/18</p> <p>・中島展 11/7</p> <p>・村上展 2/6</p> <p><b>【達成】</b> 8 人/年</p>

<p>タにおける教師ボランティア受入</p> <p>●横浜市芸術文化教育プラットフォーム受入</p> <p>●大学連携</p> <p>●大学と連携したワークショップ ※再掲：市民のアトリエ</p> <p>●大学と連携した展覧会紹介動画の制作</p>	<p>□2回/年</p> <p>□2講座/年</p> <p>□2回/年</p>	<p>・8/8-12</p> <p>【達成】3回/年</p> <p>・11/11-12, 26-27, 3/17-18, 22 横浜市中学校3校</p> <p>【追加実績】</p> <p>・7/27 教育プラットフォームとの協定による横浜市小中高の先生のためのプログラム</p> <p>【達成】2講座/年</p> <p>・9/27-12/13 大理石彫刻の技法を学ぶ[横浜美術大学]*再掲：創造支援事業市民のアトリエ*</p> <p>・1/12 戸部ハマノ愛生園[横浜国立大学連携]*再掲：鑑賞サポート事業*</p> <p>【達成】4回/年</p> <p>・コレクション展2期、コレクション展3期、中島展、若手作家支援展[城西国際大学]</p> <p>【追加実績】</p> <p>・4/25-7/9 蔡展撮影協力13人[東京藝術大学]</p> <p>・5/20 石田展鑑賞会[多摩美術大学]</p> <p>・6/17-26 蔡展制作協力ボランティア54人[横浜美術大学]</p> <p>・7/3 美術情報センター研修生受入[鶴見大学・台北世新大学]</p> <p>・7/17 蔡展鑑賞会[県立弥栄高校研究授業]</p> <p>・8/28 蔡展鑑賞会[本町小学校国語授業]</p>
<p><u>環境啓発事業</u></p> <p>●他団体との連携による、横浜みどりアップ・ワークショップ開催 ※再掲：市民のアトリエ</p>	<p>□1講座/年</p>	<p>【達成】2講座/年</p> <p>・5/10-31 横浜の木でスプーンづくり</p> <p>・6/7, 12/12 苔玉の小さな森づくり</p> <p>*再掲：市民のアトリエ*</p>

<p><u>病院・福祉施設へのアウトリーチ</u></p> <p>●病院・福祉施設へのアウトリーチ</p>	<p>□1 回/年</p>	<p>【達成】1 回/年</p> <p>・ 10/6</p>
<p><u>企業とともに社会に貢献する事業</u></p> <p>●企業連携プログラム《Heart to Art》によるアウトリーチ</p>	<p>□2 回/年</p>	<p>【達成】3 回/年</p> <p>・ 6/29, 8/27 お届け子あと</p> <p>・ 7/21 《よこしん》親子でエコ教室</p> <p>【追加実績】</p> <p>・ 12/11, 3/4 よこはま南部ユースプラザで美術館業務について講演</p>
<p><u>美術や教育活動を支える人材育成事業</u></p> <p>●博物館実習</p> <p>●子どものアトリエインターンシップ</p> <p>●子どものアトリエ教師のためのワークショップ</p> <p>●その他</p> <p>●各種研修受入れ</p> <p>●保育士、教師等を対象とした研修</p> <p>●その他研修</p>	<p>□1 回/年</p> <p>□10 人/年</p> <p>□2 回/年</p> <p>□海外インターンシップの受入れ 1 回/年</p> <p>■随時</p>	<p>【達成】1 回/年</p> <p>・ 9/4-13 22 人</p> <p>【達成】17 人/年</p> <p>・ 6/20-3/31 5 人</p> <p>・ 8/2-19 12 人[城西国際大学]</p> <p>【達成】2 回/年</p> <p>・ 7/25-26</p> <p>・ 3/26-27</p> <p>【達成】1 回/年</p> <p>・ 3/16-3/31 村上展のため 1 人受入</p> <p>【達成】10 件</p> <p>・ 5/12, 6/16, 27, 7/22, 28-29, 9/15, 11/4, 12/5, 9, 25</p> <p>【達成】6 件</p> <p>・ 4/22, 5/13, 7/8, 9/15, 12/9, 2/24</p>

## 6 施設の運営に関する計画

(1) お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行うための取組み

ア おもてなしの心の徹底とリピーターの獲得

(ア) 横浜美術館におけるビジターサービスの取組み

[目指す成果/アウトカム]

・ お客様の高い満足度をめざし、美術館に来てよかった、また来たいと思っただけけるよう運営し、障がい者、

高齢者や乳幼児をお連れのお客様、外国人など様々な来館者ニーズへ対応します。

- ・平成 25 年度は研究と計画、平成 26 年度をスタッフの養成と準備、平成 27 年度をスタッフの OJT と試行の年と位置づけます。

[成果についての振り返り]

- ・ビジターサービスについては、来年度からの新たな展開にむけて、次の 4 つの観点から準備を行いました。(再掲)
- ・1) 顧客サービスの質向上として、新たに制定したガイドライン、質の向上を取入れた新たな仕様書、従来分散していたものを新たにまとめたマニュアルを整備し、委託会社とともに質向上に取り組めます。(再掲)
- ・2) 市民協働を活用した顧客サービスの拡大として、ビジターサービス・ボランティアの準備の他、子育て世代に向けた託児サービスの試行、近隣就業者をターゲットとして企画展毎 1 回の夜間開館の準備、アフターコンベンション誘致にむけた営業、海外からの来場者の把握に向けた準備を開始しました。(再掲)
- ・3) 館内パンフレットやサインについては、閉館放送の日英化を実現し、サインマニュアルの拡充とともにパンフレットマニュアルを整備し、マニュアルに則った改訂を H28.8 までに完了させる予定です。(再掲)
- ・4) 季節感あるおもてなしは、今年度もお正月飾りを実施しましたが、次年度も継続していきます。(再掲)

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<u>拠点確立</u>	■平成 25 年度実施済、以後継続	【達成】
●ビジターサービスの拠点を、来館者がアクセスしやすいスペースを活用して設営(アートギャラリー2 など)		
<u>おもてなし</u>		
<u>ホスピタリティの向上</u> ( <u>新サービス開発</u> )		
●個人の希望者に向けた鑑賞前レクチャーや鑑賞後ワークショップ定期開催	■平成 26 年以降随時	【達成】2 展で実施 ・石田展、中島展 週末にボランティアによる個人向けガイダンス実施
●希望に応じて団体鑑賞前レクチャー実施	■随時	【達成】全展で実施 ・学芸員によるレクチャー実施
<u>アメニティの向上</u>		
●無料でダウンロードできる横浜美術館アプリなど鑑賞サポートツールの開発		【達成】
●駅から美術館への動線へのサイン設置、	■平成 25 年度実施済、以後継続 ■みなとみらい駅サイン 平成 25 年度設	【達成】 【達成】

<p>グランドギャラリーの演出、備品リニューアルによる快適な周辺環境の整備</p> <p>●横浜市の観光案内所と連携</p> <p>アクセシビリティの向上</p> <p>●条例以外の減免・無料措置などソーシャルインクルージョンへの取組み</p> <p>●高齢者、外国人、障がいをもつ方々が利用しやすい美術館となるためのサイン計画</p>	<p>置済、以後継続</p> <p>■備品リニューアル 平成 25 年度実施済、以後継続</p> <p>□グランドギャラリー演出 1 回/企画展</p> <p>■平成 25 年度実施済、以後継続</p> <p>■平成 27 年 11 月 高齢者割引開始</p> <p>■平成 26 年度実施済、以後継続</p>	<p>【達成】</p> <p>【達成】1 回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石田展 作品設置</li> <li>・蔡展 オープニングでの生花装飾、休憩用ベンチ設置</li> <li>・中島展 休憩用ベンチ設置、1/3-11 正月生花装飾</li> <li>・村上展 作品設置</li> </ul> <p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/3 高齢者割引開始</li> <li>・4/4, 11/3, 1/3 無料</li> </ul> <p>【達成】</p> <p>【追加実績】</p> <p>次年度ビジターサービス拡大準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27.3 使命, 目的, 方針, スケジュール確定</li> </ul> <p>1) 顧客サービスの質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12/27 新たに制定したガイドライン、質の向上を取入れた新たな仕様書、従来分散していたものを新たにまとめたマニュアルを整備し、委託会社とともに質向上に取り組む準備完了</li> </ul> <p>2) 顧客サービスの拡大：市民協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/17 企画展毎 1 回の夜間開館に向け実施方法等決定</li> <li>・9/18-20 NPO と協働し託児サービス試行[はぐつと連携]</li> </ul>
--	---	---

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜アート de 街コン in 横浜美術館</li> <li>・ 8/1 蔡展</li> <li>・ 1/9 中島展</li> <li>・ 2/27 村上展</li> <li>・ 1月 アフターコンベンション誘致に向け主要 PCO に営業開始</li> <li>・ 3月 海外からの来館者把握準備</li> <li>3) 館内配布パンフレットやサイン</li> <li>・ 9/18 閉館放送多言語化</li> <li>・ 2/1 サイン・マニュアル改訂、パンフレット・マニュアル整備</li> <li>・ 2月 マニュアルにのっとして改訂開始 (H28.8 完了)</li> <li>4) 季節感あるおもてなし</li> <li>・ 1/3-11 お正月のお花をグランドギャラリーに設置*再掲*</li> </ul>
<p><u>来場者コミュニケーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●PDCA サイクルによる迅速・適切なクレーム対応を行うお客様目線の運営</li> <li>●顧客サービス員、電話、ホームページなどを通じて寄せられたご意見への迅速な一次対応</li> <li>●重要なお意見について、報告書による館内共有、モニタリングによる市共有によりお客様対応改善</li> </ul>	<p>□原則、48 時間以内の一次対応</p> <p>■館内共有 随時</p> <p>□モニタリング 原則 1 回/月</p>	<p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】 1 回/月</p>
<p><u>休館日および開館時間</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●集客の見込める展覧会期間中の臨時開館日設定</li> <li>●企画展の関連イベント</li> </ul>	<p>□2 日/年</p> <p>□2 回/年</p>	<p>【達成】 2 日/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1/3, 2/12</li> </ul> <p>【達成】 4 回/年</p>

<p>ト開催時などには夜間開館も実施</p> <p><u>レクチャーホール</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●レクチャーホール貸出の利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き状況をホームページに掲載</li> <li>・平日練習プランの運営</li> </ul> </li> </ul> <p><u>チケット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●チケット入手容易化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前売券の販売</li> <li>・企画展の規模に応じた販路拡大</li> </ul> </li> </ul>	<p>□稼働率 74%</p> <p>■前売券販売開始 2か月前</p> <p>□館外販売 1か所以上/展覧会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/16, 18 蔡國強展, 4/1, 2 村上展</li> </ul> <p>【達成】82%</p> <p>【達成】2か月前以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石田展 10/25 先行ペア, 1/3 前売</li> <li>・蔡展 3/28 先行ペア, 5/8 前売</li> <li>・中島展 7/10 先行ペア, 9/25 前売</li> <li>・村上展 10/2 先行ペア, 12/1 前売</li> </ul> <p>【達成】1か所以上/展覧会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全展 セブンチケット、ティクシー</li> </ul>
---	---	---

(イ) 館内サービスの充実

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会や教育普及といった主要事業に加え、ミュージアムショップやカフェなどの周辺事業でも、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指します。</li> </ul> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの企画展ともに対予算収支が厳しい中、館全体の経費節減に加え、ミュージアムショップの経営努力などにより、黒字を確保しました。</li> </ul>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>ミュージアムショップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●展覧会関連商品、当館ならではのユニークな商品提供</li> <li>●遠方のお客様を中心としたニーズに応えるためのオンラインショップ運営</li> <li>●オンラインショップ活</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p>□企画展特設コーナー設置 1回/企画展</p> <p>□コレクション活用オリジナル商品開発 1商品/年</p> <p>□掲載点数 200点/年</p> <p>□季節に合わせた特設ウェブサイトを設定</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1回/企画展</p> <p>【達成】31商品/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3/16 石田展クリアファイル</li> <li>・10/28 中島清之などの葉書30種(別途、増刷19種)</li> </ul> <p>【達成】200点以上/年</p> <p>【達成】3回/年</p>

<p>性化のためのホームページ活用</p> <p>café 小倉山</p> <p>● 展覧会と連携した限定メニューの開発</p> <p>● フリースペースを活用した観客誘致事業や近隣施設連携事業などを展開</p>	<p>置 3回/年</p> <p>□ 6種/年</p> <p>■ 随時</p>	<p>・ 母の日、クリスマス、バレンタイン</p> <p>【達成】 20種/年</p> <p>・ 石田展 2種、蔡展 2種、中島展 2種、若手作家支援 2種</p> <p>・ 春 3種、秋 2種、冬 2種、クリスマス 2種、12/20 限定 2種、1/3 限定 1種</p> <p>【追加実績】</p> <p>・ 2/20-4/3 村上展サンドイッチセット券</p> <p>【達成】</p> <p>・ 9/1-10/18 特別展示「蔡國強といわきの物語」</p> <p>・ 10/29-2/29 カフェイルミネーション</p> <p>・ 11/27-12/28 フラワースクール作品展示</p>
--	---	---

## イ 施設の適切な維持管理

### (ア) 施設の長寿命化

<p>[取組内容]</p> <p>● 過去改修データの洗い出しと今後の改修計画提案など長寿命化に向けた準備を横浜市とともに実施</p> <p>● お客様の安全と安心を第一に、適切かつ丁寧な保守・点検業務等、故障や破損への迅速な対応</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■ 不具合が発生した場合に迅速な対応、横浜市と情報共有。新たな改修はデータを整理して保存し今後の改修計画に活用。</p> <p>■ 不具合発生時は文書で情報を共有するとともに必要な措置を実施。経過は横浜市と共有。</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 随時実施</p> <p>【達成】 随時実施</p>
---	---	--

### (イ) 災害時など非常時の対応

<p>[取組内容]</p> <p>● グループ長以上を中心に緊急レベルに応じた適切な指示系統と対応方法構築、バックアップ体制を含めた危機管</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■ 危機管理マニュアル及び緊急連絡網を作成。管理職の出勤はシフト表を作成、共有し責任体制を明確化。</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>・ 7/28 マニュアル更新</p> <p>・ 4/1, 7/28 緊急連絡網更新</p> <p>・ 毎月 シフト表を月初作成し共有</p>
---	--	--



<p>理体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自然災害やテロ、感染症などの発生時を想定した「横浜美術館危機管理マニュアル」を整備、共有</li> <li>●様々な災害を想定した訓練を所轄消防署と連携実施</li> </ul>	<p>■最新の危機管理マニュアルを館内で共有</p> <p>□9月,1月 防火・防災訓練 2回/年</p>	<p>【達成】7/28 更新し共有</p> <p>【達成】2回/年</p> <p>・9/25,2/26 実施</p>
--	---	--

(2) 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現するための取組み

ア マネジメント体制、組織形態

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p><u>責任体制の明確化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループごとの業務分担表を共有</li> <li>●意思決定機関 <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループ長会議定例化</li> <li>●子どものアトリエ企画運営会議開催</li> </ul> </li> <li>●副館長の配置</li> </ul>	<p>■変更後2週間以内に共有</p> <p>■隔週</p> <p>□3月 1回/年</p> <p>■平成28年度以降、子どものアトリエだけでなく教育普及事業全体の企画運営会議とできるよう、候補委員の選定や運営体制を準備</p> <p>■平成25年度配置済</p>	<p>【達成】</p> <p>・4/1 人事異動に伴い4/11に共有</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・3/5</p> <p>【達成】</p> <p>・4/30 退職(H28.4 配置)</p>
<p><u>効率性と総合力が発揮された事業展開のための事業部門と経営部門連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●横断的な情報共有のためにチームリーダー連絡会を定例化</li> </ul>	<p>■隔週</p>	<p>【達成】</p>
<p><u>横浜市との政策協働や美術館の社会的役割の拡大に対応した組織</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育プロジェクトチーム増員</li> <li>●ビジターサービスチーム新設</li> </ul>	<p>■平成25年度増員済</p> <p>■平成25年度新設済</p>	<p>【達成】</p> <p>【達成】</p>

イ 専門人材育成

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●適材適所の人材配置</li> <li>●横浜トリエンナーレにむけた現代美術専門人材など専門人材育成</li> <li>●企画展事前レクチャーやホスピタリティ研修など専門館にふさわしい人材育成</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人事評価制度の導入 導入済</li> <li>■横浜トリエンナーレや施設管理に対応する外部委託人材の活用 対応済</li> </ul> <p><u>当館職員の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日常的なOJT</li> <li>■当財団全体の各種研修に参加</li> </ul> <p>□企画展事前レクチャー 1回/企画展</p> <p>□接遇研修 1回/年</p> <p>□2月 安全・安心な施設運営維持の訓練・研修 1回/年</p> <p><u>専門職の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■学芸員：美術品保全、コレクション形成、展覧会立案実施、横浜トリエンナーレ実施、専門分野の確立の観点から育成</li> <li>■エデュケーター：若手職員の発想力を重視すると共に、それぞれの専門性を活かし、現代作家の動向、様々な対象者、鑑賞活動と創作体験の関連、他施設、他団体との連携、市民協働、社会貢献等を常に幅広く視野に入れ活動を展開する柔軟なコーディネート力と指導力を重視し育成</li> </ul>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】実施</p> <p>【達成】随時実施</p> <p>【達成】1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3/24, 7/8, 11/1, 1/27</li> </ul> <p>【達成】4回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/27, 6/9, 7/15, 11/24 グループ毎にピジターサービス・マニュアル研修</li> </ul> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/27 ノロウイルス嘔吐物処理講習会</li> <li>・12/9 AED 講習</li> </ul> <p>【達成】</p> <p><u>学芸</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的なOJTの実施</li> <li>・5/28-29全国美術館会議, 10/28美術館連絡協議会総会に出席</li> <li>・10月CAM-ICOM-ICOFOM-ASPAC@台湾@台湾に出席</li> <li>・11/7-9CIMAMに出席</li> </ul> <p><u>教育普及</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的なOJTの実施</li> </ul> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/15 ベニスビエンナーレ出張報告会</li> <li>・10/2, 11/17, 12/14 財団専門研修(館長講演、著作権、アーカイブ)</li> <li>・10/27-12/15 館長による全職員面談</li> </ul>
--	---	--

ウ 自主財源の開拓

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ファンドレイジングの取組みとして、当館でおこなわれる広報活</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標：2社以上</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】3社[横浜信用金庫、寺田倉庫、NTTソフト]</p> <p>【追加実績】</p>
--	-------------------------------	--

<p>動、教育プログラム、 子どもの育成活動を企 業と協働で実施する機 会《Heart toArt》継続</p> <p>●駐車場の各種割引サー ビス実施</p>	<p>□割引制度 2種</p> <p>■平成 27 年 10 月 一部駐車場割引を見 直し</p>	<p>・ 11/20 三菱重工特別鑑賞会</p> <p>【達成】2種</p> <p>・ 10/19 駐車場利用日に館内での買い物 合計が 3,000 円以上の場合最初の 90 分 無料 廃止</p> <p>・ 障がい者手帳をお持ちのお客様は最初 の 90 分無料 継続</p> <p>・ 当美術館の展覧会ご観覧の為の団体バ スは 2 時間まで無料 継続</p>
--	---	--

## 7 その他の計画

(1) 政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現するための  
取組み

### ア 政策協働による指定管理

<p>[取組内容]</p> <p>●政策協働実現のため、 政策経営協議会参加</p> <p>●一連のプロセスの透明 性を高めるため、指定管 理者選定評価委員会出 席</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■政策経営協議会参加と各種意見の事業 への反映</p> <p>■指定管理者選定評価委員会出席と各種 意見の事業への反映</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>・ 4/21, 8/3, 11/17, 1/19 実施</p> <p>【達成】</p> <p>指定管理者選定評価委員会</p> <p>・ 5/22 評価委員会ヒアリング</p> <p>・ 7/22 評価委員会ヒアリング</p> <p>・ 8/10 評価委員会</p> <p>指定管理者選定評価委員視察</p> <p>・ 石田展 5/22</p> <p>・ 蔡展 8/10</p> <p>・ 村上展 3/8</p> <p>中期Ⅱ期計画確定</p> <p>・ 8/10 評価委員会</p>
--	--	--

### イ 当財団独自の事業評価制度の運用

<p>[取組内容]</p> <p>●当財団全体の経営を評 価する団体評価</p> <p>●施設やグループごとの 年度を通した施設等組 織評価</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□進捗状況報告 1回/年 ※評価は協約期間終了時に実施</p> <p>□2回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・ 6月 財団にて報告</p> <p>【達成】2回/年</p> <p>・ 4/30 昨年度事業報告提出、11/17 半期 振返り提出</p>
--	---	--

●事業ごとの個別事業評価	<input type="checkbox"/> 1回/事業	【達成】1回/事業 ・各事業随時実施
●横浜美術館内のPDCAサイクル	<input type="checkbox"/> 指定管理者モニタリング 原則1回/月	【達成】原則 1回/月

ウ 「横浜市文化施設指定管理業務評価システム」による評価

[取組内容] ●横浜市が委嘱する選定評価委員会による指定管理施設に対する外部評価の実施	[達成指標] <input type="checkbox"/> 1回/年の評価において各評価軸項目の平均B(=目標通り達成できている)以上	[実施内容と達成状況] 【達成】8/10 B確定
--	--	-----------------------------

エ 年報の発行

[取組内容] ●長期的な振返りの基礎と事業活動の対外的な説明のための年報発行	[達成指標] <input type="checkbox"/> 平成 26 年度年報上半期の発行 1回/年 ■平成 27 年度年報の翌年度上半期の発行を目指し準備	[実施内容と達成状況] 【達成】1回/年 ・昨年度分 6/30 発行 【達成】H28 上半期 今年度分発行見込み
---	---	---

8 人員配置

計	43 人
・館長	1 人
・副館長	0 人 (4/30 退職(H28.4 配置))
・グループ長	4 人
・担当グループ長	3 人
・チームリーダー	6 人
・担当リーダー	10 人
・職員	19 人

\* H28.4 に国際グループ長配置、H28.4 以降に学芸員 2 名の新採用にむけ、準備を行った。

9 留意事項

[取組内容] ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との	[達成指標] ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口の設置 設置済 <input type="checkbox"/> 個人情報保護研修 1回/年	[実施内容と達成状況] 【達成】 ・適正に実施 【達成】 ・財団にて設置済 【達成】3回/年 ・4/21 新採用職員向けにコンプライアンス研修
---	---	---

<p>連絡調整</p> <p>●その他</p> <p>1) 許認可及び届出等</p> <p>2) 施設の目的外使用</p> <p>3) 人権の尊重</p> <p>4) 近隣対策</p> <p>5) 重要書類の管理</p> <p>6) 行政機関が策定する基準等の遵守</p> <p>7) 法令の制定及び改正への対応</p>	<p>■財団事務局に情報公開窓口を設置 設置済</p> <p>■横浜市や関連機関との連絡緊密化</p> <p>■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施</p>	<p>・4/17, 5/12, 27, 29 全職員向けにグループ別にコンプライアンス研修</p> <p>・9/8, 16, 18, 26 全職員向けにグループ別にコンプライアンス研修</p> <p>【達成】</p> <p>【達成】</p> <p>・適正に実施</p> <p>【達成】</p> <p>・適正に実施</p>
--	---	--

## 平成27年度 「横浜美術館」 収支予算書及び報告書

収入の部						(税込、単位：円)
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	759,971,000		759,971,000	759,971,000	0	
利用料金収入	62,556,000		62,556,000	60,928,804	1,627,196	駐車場収入減
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	0		0		0	
自主事業収入	222,309,000		222,309,000	208,879,818	13,429,182	企画展入館者減に伴う収入減
雑入	69,054,000	0	69,054,000	66,014,702	3,039,298	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	610,000		610,000	1,050,623	△ 440,623	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他（店舗、喫茶、寄付金）	68,444,000		68,444,000	64,964,079	3,479,921	ショップ仕入減に伴う収入減
<b>収入合計</b>	<b>1,113,890,000</b>	<b>0</b>	<b>1,113,890,000</b>	<b>1,095,794,324</b>	<b>18,095,676</b>	
支出の部						
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	334,041,000	0	334,041,000	314,299,315	19,741,685	
給与・賞金	273,819,000		273,819,000	266,905,796	6,913,204	職員1名減
社会保険料	42,554,000		42,554,000	39,778,004	2,775,996	
通勤手当	8,555,000		8,555,000	6,648,992	1,906,008	
健康診断費	291,000		291,000	180,791	110,209	
勤労者福祉共済掛金	282,000		282,000	228,500	53,500	
退職給付引当金繰入額	8,540,000		8,540,000	557,232	7,982,768	退職手当見直しに伴う減
事務費	8,682,000	0	8,682,000	7,347,038	1,334,962	
旅費	193,000		193,000	160,470	32,530	
消耗品費	1,710,000		1,710,000	925,441	784,559	
会議謝礼金	0		0	0	0	
印刷製本費	807,000		807,000	767,980	39,020	
通信費	1,677,000		1,677,000	2,006,798	△ 329,798	
使用料及び賃借料	1,700,000	0	1,700,000	1,463,958	236,042	
横浜市への支払分	154,000		154,000	148,800	5,200	
その他	1,546,000		1,546,000	1,315,158	230,842	
備品購入費	198,000		198,000	45,360	152,640	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	426,000		426,000	222,852	203,148	
職員等研修費	149,000		149,000	0	149,000	
振込手数料	296,000		296,000	445,920	△ 149,920	
リース料	0		0	0	0	
手数料	1,014,000		1,014,000	408,259	605,741	
地域協力費	512,000		512,000	900,000	△ 388,000	
事業費	366,879,000	0	366,879,000	363,278,808	3,600,192	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	0		0	0	0	
自主事業費	366,879,000		366,879,000	363,278,808	3,600,192	各事業費の見直しによる減
管理費	221,727,000	0	221,727,000	225,161,772	△ 3,434,772	
光熱水費	90,653,000	0	90,653,000	93,836,713	△ 3,183,713	
電気料金	86,243,000		86,243,000	89,446,846	△ 3,203,846	地域冷暖房の増
ガス料金	50,000		50,000	42,062	7,938	
水道料金	4,360,000		4,360,000	4,347,805	12,195	
清掃費	26,482,000		26,482,000	26,631,236	△ 149,236	
修繕費	5,945,000		5,945,000	5,508,959	436,041	
機械整備費	6,334,000		6,334,000	6,333,744	256	
設備保全費	92,313,000	0	92,313,000	92,851,120	△ 538,120	
空調衛生設備保守	11,772,000		11,772,000	11,058,000	714,000	
消防設備保守	1,890,000		1,890,000	1,620,000	270,000	
電気設備保守	977,000		977,000	977,000	0	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	77,674,000		77,674,000	79,196,120	△ 1,522,120	施設運営委託費の増
共益費	0		0	0	0	
公租公課	27,950,000	0	27,950,000	31,342,843	△ 3,392,843	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	27,950,000		27,950,000	31,300,500	△ 3,350,500	(対前年度)指定管理料増に伴う増
印紙税	0		0	27,000	△ 27,000	
その他（法人税）	0		0	15,443	△ 15,443	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	154,611,000	0	154,611,000	139,175,569	15,435,431	
本部分	73,911,000		73,911,000	73,911,000	0	
当該施設分	80,700,000		80,700,000	65,264,569	15,435,431	ショップ仕入及び消費税減
ニーズ対応費	0		0	0	0	
<b>支出合計</b>	<b>1,113,890,000</b>	<b>0</b>	<b>1,113,890,000</b>	<b>1,080,605,445</b>	<b>33,284,555</b>	
差引	0	0	0	15,188,879	△ 15,188,879	
自主事業費収入				208,879,818		
自主事業費支出				363,278,808		
自主事業収支				△ 154,398,990		
管理許可・目的外使用許可収入				1,050,623		
管理許可・目的外使用許可支出				148,800		
管理許可・目的外使用許可収支				901,823		